

2017年度 学校法人 三幸学園 東京リゾートアンドスポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 寺澤 正典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 澤田正幸

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的スキルを十分持ちながら、常に変遷する社会に対して柔軟に対応するため日々研究を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

そして、学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、学内で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「スタートアッププログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振返り

・技能と心の調和のとれた人材の輩出

学内で教育理念を共有し目指す方向性、価値観を一本化して教育理念に沿った、教育を行い人材を創っていくためにも「キャリア支援」「教育」「生徒募集」の重点施策を検討・実行し、一貫通貫の学校運営の実行が必要となる。また、運営を通じて、社会貢献の出来る人材を世に輩出していく。

・人材教育をしていく働く教職員の役割について

学校法人としてのスケールメリット、多岐にわたる専攻分野や進学シェアを活かした教育連携を推進し、『教育内容の充実』『独自性の構築』や就職実績の質・量を高める とともに、関連業界社会に貢献する“職業教育機関”として各学校・三幸学園のプレゼンス(存在感・影響力)を高めていく。

②学校関係者評価委員会コメント

・学生からの要望はあるのか？(島影様)

→比較的希望者は多い。入学前の説明している(寺澤)

・モチベーションの高い生徒に引き換え退学する生徒は参加したがるのか？(島影様)

→机上の学びのみ考えている生徒は参加意識は低い(寺澤)

・内定辞退や入社後3年内辞退が増えている。産学連携で様々参加し、選んだ企業の方が、そういったことは防げるのではないか。アルバイトから入社をする方もいるので、産学連携を積極的にしたい。長期的なスパンのものができればお願いしたい。(澤田様)

→是非お願いしたい。今年度もラグビーフットボール協会と連携でジャパンセブンズに参加する(寺澤)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・育成人材像が明確ではあるが、業界理解の為の機会を提供していく必要がある

② 今後の改善方策

- ・業界理解の為の著名人による講演を定期的に行い、業界理解や興味関心を持たせる
- ・入学後において専門教育を学ぶ意義や意味をプログラムとして提供している(RS 初期教育プログラム)

③ 特記事項

- ・教育理念から人材育成をより体系化するべく三幸学園の教職員としてのビジョンを設定し、全教職員へ浸透している。業界ニーズを学ぶ為に、産学連携として、フィットネスクラブと提携を結び、業界の即戦力となれる人材育成の為のカリキュラム等を共同開発している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校で学ぶ意義などはどのように伝えているのか？(寺澤)
→卒業が基本ではあるが、人間関係を構築する為のコミュニケーションを身に付けたなど、卒業後に様々な経験をできたと感じてもらえるように伝えている。(小室様)

(2) 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

① 課題

- ・組織体制において主体的且つ、質の高い教育提供をしていく為の、会議と人材育成が必要
- ・無限にある情報の精査と質の高い情報の公開及び取得が必要

② 今後の改善方策

- ・組織における情報共有をタイムリーに行う(TEL・メール・対面会議・WEB 会議の積極活用)
- ・情報のカスタマイズを行い、適切な情報を共有していく(職員会議・資料作成等)

③ 特記事項

- ・年に3回の全教職員の会議を行い、運営方針の浸透や情報共有を積極的に行っている。
- ・会議の中で意見交換なども時間の許す限り行い、学校運営に反映している。
- ・WEB 会議を通じて、タイムリーな各姉妹校との情報共有や課題に対する施策なども行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・情報共有の仕方はどうですか?(寺澤)
→現場には多くて10名なので、簡単なものはグループ LINE で連絡を取っている。エリアチーフを設定し、月に1回エリアチーフが集まり情報共有をしている。(松岡様)
- ・対面にて伝える意味を考え、熱意をもって伝えるものを精査して伝えるようにはしている。(小室様)

(3) 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 ② 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	⑤ 3 2 1
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

・業界と連携し、業界ニーズに合った人材育成、人材輩出すると共に、学内で教育理念を共有し目指す方向性、価値観を一本化して教育理念に沿った、教育提供を通じて、人材を創っていく

② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関係性を高めることで、業界の動向を正確に把握する。その為にも、企業様や業界団体にも当校のことも理解して頂けるように、イベントの参加や企業様との連携を深めていく働きかけを続けていく。
- ・収集した情報を多面的に評価及び精査し、教育課程の編成に活用できる仕組みを構築する。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、スポーツ分野におけるビジョンを「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材を育成する」と設定し、全教職員への浸透を実施している。業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・最近の生徒の様子について(寺澤さん)
 - 三校学園の生徒は「礼儀正しい」。学校ごとに挨拶の仕方が違うことは感じる。どのようにしているかは知りたい。
 - 法人としては代わらないが、学校ごとに多少の違いはある。
- ・課題はなにかあるか(寺澤さん)
 - 常に気を張っているのは難しいが、常に誰からも見られる可能性があることは気がつけたほうが良い

かもしれない。(澤田様)

・現在のリゾスポ生の印象はどうか。(寺澤)

→熱心な生徒が多い印象。出来る限り教えてあげたいと思う様な姿勢を感じる。(島影様)

・突き抜けた生徒がいても良いと昨年貰ったがどうか？

→そういった子の育て方。教育の方法、個人をどう伸ばしていくのかを変えてみてもいいかもしれない。

そういう方向に変換しても学校の存在感もできるのではないかと思う。(島影様)

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・キャリアを意識させた、就職指導をしていく必要がある
- ・学校へ来る事の目的(カリキュラム・資格・実習・産学連携等)を継続して伝えていく必要がある

② 今後の改善方策

- ・資格取得に向けた動機づけ及び対策を統一してクラス毎に実施し、模擬試験等の結果を共有
- ・職員会議による定期的な生徒情報共有による、生徒指導の確立と、全教職員の生徒指導スキルのボトムアップ
- ・就職校内ガイダンスの実施、就職決起大会、就職模擬面接の実施。
- ・大手企業希望者に対する、質の高い就職指導プログラムの構築・提供
- ・各クラス生徒状況報告を月一実施し、退学防止報告書を退学予兆の時点にて作成し、傾向や今後の対策に活用する。
- ・卒業生の活動状況の情報収集と把握

③ 特記事項

- ・2018年度 全国スポーツ系分野専門学校在籍者リゾスポシェア率 43.2%
- ・2017年度 退学率 9.6%(目標 6%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・内定を取るための指導はマストだと思う。逆に数値が出ていることはすばらしいと思う。学生にとってはポジティブなことだとは思ふ。(島影様)
- ・退学率は高い？
 - 選択肢が増えたことや、その場にずっといなければいけないという雰囲気によって日本が変わってきたのでネガティブに捕らえ過ぎず、別の見方をしてみても良いのではないかと。(島影様)
 - マイナス思考でのアプローチをしていたが、ポジティブな思考でのアプローチをしてみるように変更している(寺澤)
- ・入学前のギャップで辞めていくので、学校は入学前の伝え方を変えてみていいのではないかと。(澤田様)
 - 考え方は出口から考えてそれを伝えていくのはやっている。(寺澤さん)
 - 往々にしてギャップはゼロにはならない。モチベーションコントロールをするための施策やプログラムをやっていくことも大事ではないかと。(島影様)

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	②	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	②	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
中途退学者への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・入学時と卒業後の進路と実際の進路のギャップを埋めていく必要がある
- ・課外活動の位置づけを変え、質の高い産学連携を提供していく必要がある

② 今後の改善方策

- ・キャリアを見据えた生徒指導カリキュラムの見直し(HR や就職指導)
- ・課外活動において事前・事後学習の機会を設定し、質の高い課外活動としていく

③ 特記事項

- ・2018年度において多くのボランティア活動機会を精査し、質の高いものを生徒へ提供している
- ・ボランティアに参加する生徒には、事前に勉強会を開催し、ボランティアの主旨等の理解をさせている

④ 学校関係者評価委員会コメント

修正⇒4つめの項目 評価⑤→④へ変更

- ・高校ではどのような対応をしているのか(寺澤)
→電話連絡をする対応がメイン。担任の力量で差がでないよう全体で確認をシステムとしてやっている。
(小室様)
- ・教員と生徒の関わりを客観的に見てどうか。(寺澤)
→熱量の差は見て取れる。先生が熱いが、生徒自体の熱量に差は感じる。(松岡様)

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・施設の老朽化に伴う整備・点検を定期的に行う必要がある
- ・学外の実習・インターン制度を活用し、学校以外で学べる環境を創っていく

② 今後の改善方策

- ・施設・設備上の不具合が出ないよう、施設担当とビル管理会社と協働で、定期的な点検を実施
- ・無数にある学外の学びの機会を精査し、質の高い教育体制の整備と提供を実施

③ 特記事項

- ・2019年度に、東京都文京区に校舎を移転(東京メトロ後楽園駅から徒歩8分以内)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・清掃員にも相互に声を掛け合っていることでキレイに使っていただいていると感じる。経年劣化はどうしてもあるので、そこは経営計画の段階で考える必要があると思う。(松岡様)

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
入学選考は、適切に行われている。	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・入学前段階で、学生の能力に適した学習の難易度等を伝えられていない。
- ・学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に、学生の母校等に情報を提供出来ていない。

② 今後の改善方策

- ・教育活動や学修成果を正確に露出や説明を行い、入学希望者予定者の状況に併せて説明をしていく
- ・首都圏広報室と協働で高校側へ適正な情報を提供・公開していく

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている。
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握して上で決定している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校の教員として実際はどんな情報が欲しいのか(寺澤さん)
 - 資格取得に関する情報は正直に欲しい。退学に関しては他の専門学校は実際に伏せている学校もある。(小室さん)
 - なぜ辞めたかの方が大事かと思う。先方からストップがかかってしまうということは何か学校側に落ち度がある可能性もあるのではないか?(島影様)
 - 退学理由を伏せているのかどうか?(小室様)
 - 正直に伝えている。(寺澤様)
 - 高校の卒業生が楽しいと遊びに来てくれるとマイナスイメージが一気に払拭する。(小室様)
 - 企業としても卒業した学校へ遊びに行くように話をしている(澤田様)

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題
なし

② 今後の改善方策
昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

③ 特記事項
なし

④ 学校関係者評価委員会コメント
なし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

・更なる法令遵守の推進・問題点改善に当たっての取り組み強化促進が必要

② 今後の改善方策

・会議や掲示などを通して、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図ると共に、役職者にて随時、取り組みの進捗状況の把握に努める。

③特記事項

・平成 26 年度自己評価結果により公開を開始。

④学校関係者評価委員会コメント

・SMS の活用に関して何かあれば(寺澤)

→SNS による事故が起きた時に、どうなっていくのかを伝えるようにしている。(澤田様)

→会社としてのアップであれば関係を通すこと、個人であげることに関して会社に関することは基本的にあげないように禁止している。(島影様)

→機密保持事項についてどのように扱うのかを講習として定期的実施をしている。(松岡様)

→教職員には生徒と友達にならないようになど伝えている。活用の仕方をうまく伝えてあげないといひのではないかと思った(小室様)

→サイバーセキュリティの保健に入っている。キーワード検索をするとどのような結果が来るのかが見れるような流れをとっている。(澤田様)

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	③	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

・地域への講座提供や地域振興を積極推進していく必要がある

② 今後の改善方策

・地域在住の高齢者や子ども達を対象に、本校生徒が学ぶ内容を活かした公開講座を積極的に実施していく。また、地域と連携を図り、何か事業展開を起こす等、取り組み内容を強化していく。

③ 特記事項

・2019年度の校舎移転を踏まえ、文京区の町会主催行事に教員・生徒が積極的に参画
 ・例年開催しているとしまスポーツ祭りは学校を上げて参画予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

・行政との関係性を大事にしているが、マンパワーが足りていないのが現状。地域の会社と連携する必要があるとは感じている。(澤田様)
 ・中目黒の清掃活動を自主的にしている。地域イベントに協賛等をし、表現をしている。障害がある子どもに対するのスクールを完全ボランティアで行っている。会社の雰囲気はそれに参加をしている。(島影様)

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

・留学生の受入れ後の体制を強化していく必要がある(窓口の設定)

② 今後の改善方策

・留学生の相談窓口を学内で設置し、円滑な指導や対応を可能としていく

③ 特記事項

- ・2015年度から「留学生学費減免入学」制度を導入している。
- ・2018年度には、留学生が3名入学

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・新卒者が中国・台湾の方。日本に母体を持ちながら、海外に出展している企業はあるのではないか？(島影様)
→日本に海外の方が増えているので、今後採用の流れはあるのではないか。(澤田様)
- ・外国の方が日本で取れる、スポーツ系の資格はとれるのか？
→民間の資格はあるが、これをもっていけば大丈夫というものはない。あとは、日本の技術を母国に持ち帰ると考えている留学生もいる。(寺澤)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各教員間において、リアルタイムの情報共有と連携を図ることにより、担任力の強化や学校全体として教務力の向上をに力をいれて行き、退学率の低減を確実に進めて行く。また、教育内容の充実と質の向上を目指し取り組んでいくことが必要である。その為にも教員自身一人ひとりが責任感をもって行動することが大切である。学校の取り組みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

学校関係者評価委員会コメント

- ・専門学校として、明確なこの資格を目指しているというものはあるのか？本質的な理解をするきっかけは教員が伝えるほかないと思う。現実的に取らなきゃいけないという話がないか？
→具体的な目標は明確にはない。
- ・SDCの教育は非常にいい内容であると思う。(校長)
- ・必ず卒業生が勉強をしておけばよかったと必ず言う。先輩の声や卒業生をすぐに伝えてあげることが大事になっていると思う。行政が求めている資格はトレンドを見ている。他の学校ではトレンドな資格を企業にヒアリングするようなことをやっている。(澤田様)
- ・卒業生の中で、経験年数のある方を呼んでみたらイメージが付きやすいのではないかとと思う。(松岡様)